

大阪商業大学学術情報リポジトリ

SDGs（持続可能な開発目標）を地理教育でどう教えるのか — 大学生の感想からの考察 —

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪商業大学教職課程委員会 公開日: 2023-03-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西岡, 尚也, NISHIOKA, Naoya メールアドレス: 所属:
URL	https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/1584

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



SDGs（持続可能な開発目標）を 地理教育でどう教えるのか

—大学生の感想からの考察—

西岡尚也

- 1章. はじめに
- 2章. 17目標をグループ化した講義の展開
- 3章. 大学生の感想から見えて来た5つの傾向
 - (1) 「知識がふえた」に分類されるもの
 - (2) 「意識が変化した」に分類されるもの
 - (3) 「行動を起こしたい」に分類されるもの
 - (4) 「目標の達成は困難」に分類されるもの
 - (5) 「その他」に分類されるもの
- 4章. まとめと今後の課題

キーワード：17目標の分類、大学生の感想の傾向、SDGs学習の意義

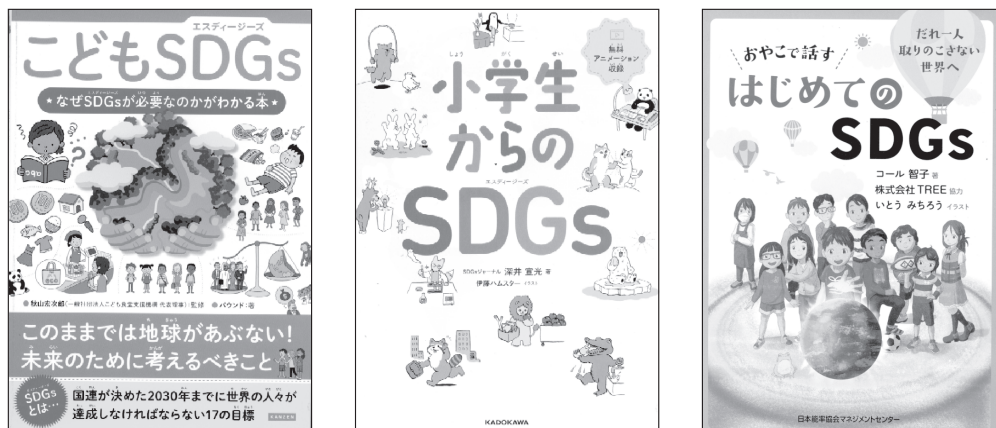
1章. はじめに

ここ数年書店ではSDGs図書コーナーが設けられるなど、関連した子ども向け学習書や教材の出版がさかんである（図表1）。しかし教育現場に於いては、どれだけの教員がきちんと教材研究をして授業に臨んでいるかは疑問である。とりわけSDGsは、企業の戦略面での取り組みは多く目にするが、社会人への「入門書」「啓蒙書」が少なく、一般大衆へは、十分に関心が深まっていない印象を受ける。さらに「ゴールやターゲットの数が多いうえ、話が壮大すぎて、リアルさを感じにくい（高橋2022、4頁）」などの指摘もある。

筆者が担当する大学教育現場でもその傾向が見られ、多くの大学生にとっても、SDGsへの興味・関心はまだ少ないと考えられる。小稿では、筆者が取り組んだ教養科目「地理学」での事例を紹介しながら¹⁾、どのようにすればSDGsの意義が伝えられるのかを考えてみたい。

1) 筆者は2012年度から大阪商業大学で、教養科目「地理学Ⅰ（前期15回）」「地理学Ⅱ（後期15回）」（一コマ90分間：受講生は毎年約200～250人）を担当してきた。とりわけ2015年以降はSDGs（持続可能な国連開発目標）を、重点的に講義で取りあげている。

なお小稿で紹介した「大学生の感想」は、地理学Ⅰ（前期第15回終了時、2022年7月）受講生に書いてもらった「前期15回の講義の感想文」から抜粋したものである。



図表 1：小学生を対象にした SDGs 関連図書例

備考：左から秋山（2020）、深井（2021）、コール智子（2022）

2章. 17目標をグループ化した講義の展開

筆者はこれまで大学での教養科目「地理学」において、「SDGs目標17」（図表2：左側）を紹介しながら、過去のCOP会議ニュース（新聞記事）なども用いて講義を行ってきた。しかしながら「17の目標」は非常に広範囲で、かつ多岐にわたるので、これをそのまま講義で解説するのは負担が大きい。そこで筆者は、「17の目標」を事前に、次の①～④の4つのグループに分けて（分類し）教えてきた。

具体的には、①経済格差に関わる目標、②人権にかかわる目標、③環境に関わる目標、④その他：目標達成の是非、がそれぞれである（図表2：右側①～④）。この分類のヒントにしたのは、ストックホルム・レジリエンスセンターが発案した「17の目標の階層モデル」で、一般には「ウェディングケーキモデル²⁾」と呼ばれている（井田ほか2022、7頁）。

①経済格差にかかわる目標：の講義では、貧困・飢餓・健康・福祉・安全な水など、に関わる課題の解決を考えた。地域では第二次世界大戦後の新たな独立国誕生で、「第三世界」と呼ばれる南側「途上国」と、従来の北側「先進国」の格差問題＝南北問題を歴史的、地理的（空間的）に説明した。とりわけ国際宇宙ステーション（ISS）の動画や、「夜の日本列島付近（写真）」を用いた講義は、受講生には好評であった（金坂ほか2020、154頁）。

②人権にかかわる目標：の講義では、ジェンダー・働く機会・核兵器・平和などから平等や公平を考えてもらった。地域ではアフリカ大陸を中心に、特にヨーロッパ人の視点から人

2) 「ウェディングケーキモデル」によれば、17の達成目標が「①経済」「②社会」「③自然環境」の3分野にグループ分けされている（井田ほか2022、7頁）。しかしながら、小稿では受講生の「感想を分析し考察する」方法として、3分野以外に「④その他：目標達成の是非」を加えた。なぜなら「目標17：パートナーシップで目標を達成」背景には、現実問題として「2030年には達成が困難である」などの「厳しい意見」や「SDGs批判」も存在するからである。

図表2：SDG s 17の目標とそのグループ分け

SDG s 17の目標	①～④に分類
目標1：貧困をなくそう	①経済格差にかかわる目標
目標2：飢餓をゼロに	〃 〃
目標3：すべての人に健康と福祉を	〃 〃
目標4：質の高い教育をみんなに	〃 〃
目標5：ジェンダー平等を実現しよう	②人権にかかわる目標
目標6：安全な水とトイレを世界中に	①経済格差にかかわる目標
目標7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	③環境にかかわる目標
目標8：働きがいも 経済成長も	②人権にかかわる目標
目標9：産業と技術革新の基礎をつくろう	①経済格差にかかわる目標
目標10：人や国の不平等をなくそう	②人権にかかわる目標
目標11：住み続けられるまちづくりを	③環境にかかわる目標
目標12：つくる責任 つかう責任	〃 〃
目標13：気候変動に具体的な対策を	〃 〃
目標14：海の豊かさを守ろう	〃 〃
目標15：陸の豊かさを守ろう	〃 〃
目標16：平和と公正をすべての人に	②人権にかかわる目標
目標17：パートナーシップで目標を達成	④その他：目標達成の是非

（出典：大芝亮ほか（2022）『私たちの公共』清水書院、148頁をもとに加筆し筆者作成）

種差別の歴史をふり返り、奴隷貿易～アパルトヘイト政策の説明を行った。奴隷貿易では「Roots」（テレビドラマ）の一部を視聴してもらった（アレックス・ヘイリー 1977）。

③環境にかかわる目標：の講義では、クリーンエネルギーと技術・住みたい町・気候変動などに焦点を当てて講義を展開した。例えばアラル海の縮小、北極海の氷の減少、ツバルにおける海面上昇の「写真・映像など」を使用した（澁澤2022、112頁）。

④その他：目標達成の是非：の講義では、「SDGsはアリバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない（斎藤2020、4頁）」など、SDGsへの批判や反対意見も紹介し、SDGsの問題や課題をより深く受講生に考えてもらう資料を提供した。最初に「地球そのものにも誕生と終焉」があり、私たちの「人生も一度しかない」ということを訴えた。すなわち地球も人間も「持続できない存在である」ことを共通理解した後で、「かけがえのない地球」「人類の責任の重さ」を考えてもらうように講義を展開した。

3章. 大学生の感想から見えてきた5つの傾向

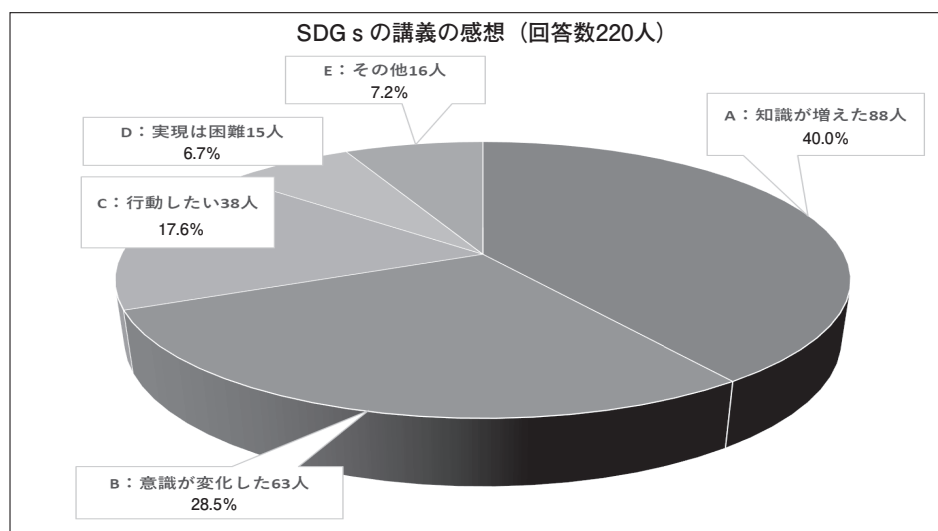
SDGsに関わる講義後に自由に書いてもらった大学生諸君の感想（総計220人）は、次の図表3、グラフ1のように、大まかに5つに分類「傾向A～E」できることが分かった³⁾。ま

3) ただしこの分類（5つの傾向）は筆者の主観によるものである。

た以下の(1)~(5)はその具体的な感想の抜粋である⁴⁾。

図表3：大学教養科目「地理学」でSDGsの講義を受けた感想（回答数220人）

感想の分類	人数 (%)
傾向 A：SDGsに関する知識がふえた。	88人 (40.0%)
傾向 B：自分自身の意識が変化した。	63人 (28.5%)
傾向 C：自分も何か行動したいと思うようになった。	38人 (17.6%)
傾向 D：目標の達成は困難だと思うようになった。	15人 (6.7%)
傾向 E：その他、自分の人生や目標を考えるようになった。	16人 (7.2%)
合計	220人 (100%)



グラフ1：SDGsの講義の感想の分類（回答数220人）

(1) 傾向A：「知識がふえた」に分類される感想（88人から15人を抜粋）

A-1：SDGsという単語がSustainable Development Goalsという略称だったのを初めて知り、「自然環境はそのままで社会発展させることを、将来においても継続していくことができる目標」という意味だったことを初めて知った。

A-2：私は大学生になってSDGsという言葉を知り、最近この言葉を聞くことが多くなった。SはSustainable：持続可能な、DはDevelopment：開発、GはGoals「s」：目標で「持続可能な開発目標」、これからもずっと続いていく、よりよい世界を作るための目標で17のゴールが設定されている。この目標はすぐには達成できないと思うが、徐々に達成してもっと住みやすい世界になれば良いと思った。

A-3 最近SDGsという単語をよく聞くが、SDGsとはSustainable Development Goals（自

4) 原文が「です・ます」調の文章は、「である」調に書き換えている。また長文は短くし要約した。筆者の判断で選択して「例」としてあげている。

然環境はそのまま、社会発展させることを、将来においても継続していくことができる目標）であることを学習できた。現代の地球では自然環境の破壊を人間が行っており、それにより地球温暖化や大気汚染、水質汚染などの問題が発生しており、人類が生活できなくなる環境になってしまうことが理解できた。

A-4：SDGsとは「Sustainable Development Goals」を略したもので、日本語では「持続可能な開発目標」と訳され、国際社会共通の目標であることを知った。SDGsが目指すのは、世界が直面している課題の解決で、企業がこの課題解決に取り組むことにより、新しいビジネスチャンスの創出につながる。17の目標に対し、自社の技術やサービスを用いて解決する新規事業や、他業種と足りない技術を補う協働などの事業展開が可能になることを知った。

A-5：夜の地球を国際宇宙ステーション（ISS）から見た写真では、時に暗いところは人口が少なく、経済的にも貧しくてエネルギー消費が少ない。逆に明るいところは、人口が多くて、経済も安定していてエネルギーの消費が多いことがはっきりとわかることを初めて知った。環境問題について森林破壊、砂漠化、サンゴの白化、サハルの干ばつの深刻化、海の砂漠化が進んでいるので、SDGsの取り組みを世界で広めて環境問題を改善できたらいいなと思った。

A-6：地球には、現在約80億人が生活していることからこのような問題が発生することがわかった。人口が増えた事によって自然環境が悪化し、温暖化・砂漠化などの問題が起こっていることを知った。

A-7：豊かな日本は、輸入でエネルギーを得ることができて、世界には人口の増加により電気が足りていない問題があることを知った。人口の増加に国や社会が対応できていないことを感じた。これを解決するには先進国が支援するしかないと思った。

A-8：このままでは将来資源は枯渇する可能性が高い。日本では資源がほとんど採れないため、代替エネルギーの開発や省エネが必要となってきた。環境問題では、世界全体では、地球温暖化があり、それらを解決するために気温上昇を1.5℃に抑える目標が定められているのを知った。

A-9：地球温暖化はどんどん進んでいる。これを抑えるにはエネルギーを再生可能エネルギー、自然エネルギー、風力、太陽光発電に変える必要がある。温室効果ガスになる二酸化炭素を減らすためには、色々な解決法があることを学んだ。

A-10：講義を受けて世界の環境問題についてやSDGsについて知り学ぶことができた。人工衛星から見た地球動画からは、国の発展具合や山や川や海の形を見ることができ、とてもすごいと思った。環境問題では、私が生きているうちに地球が変わっていきその変化でどう変わるか、知ることができた。

A-11：講義では、エネルギー問題と環境問題について学んだ。国際宇宙ステーション（ISS）から見た夜の地球は暗いところは人口が少なく、経済的にも貧しくてエネルギー消費が少ない。逆に明るいところは、人口が多くて、経済も安定していてエネルギーの消費が多いことがはっきりとわかることを初めて知った。これは、人口の多さと関係しており、中国やインドでは明かりが多く、北朝鮮では、ほぼ明かりが無かった。また、環境問題について森林破壊、砂漠化、サンゴの白化、サハルの干ばつの深刻化、海の砂漠化が進んでいるので、SDGsの取り組みを世界で広めて環境問題を改善できたらいいなと思った。

A-12: 夜の地球を空から見て、明かりの具合で人口が多いなどを表すものがあったが、日本は明るい所が多いように感じた。講義の中で出てきた、「地球の定員」という言葉にハッとさせられた。日本は、人口が年々減っているが、世界全体でみると、人口はどんどん増えており、住む場所や食料などが足りない恐れが出てくる。足りなくなってくると、地球は定員オーバーしたとも言え、危機的な状態であると考えられる。

A-13: 世界のエネルギー問題と世界の環境問題について学び、人工衛星から見た夜の地球がすごく綺麗で驚いた。日本は少子高齢化だが、世界の人口は2050年には100億人になると聞いて驚いた。世界の環境問題は、森林破壊・砂漠化・サンゴの白化などの問題があって解決すべき問題はたくさんあると思った。

A-14: 今の地球は、自然破壊や地球温暖化が問題視されており、地球温暖化などはどんどん進んで行ってしまっており、今年は日本でも5月頃から非常に暑い気温になってしまっていて、これは地球温暖化のせいではないかと考えるようになった。このように積み重なる自然破壊や環境汚染により地球が悲鳴をあげている。この問題は1秒でも早く解決するべきだと思った。

A-15: 環境破壊の原因は、人間ということはもちろん分かっていたが、地球の定員のオーバーという言葉にすごく納得した。

(2) 傾向B:「意識が変化した」に分類される感想 (63人から12人を抜粋)

B-1: 世界には日本とは違いエネルギーの供給が追いついていない国や、電気が使えない地域があることを知った。そういった格差をなくすため、最近SDGsという考え方が話題になっている。できるかどうかではなく、やろうとする心を持つだけでも変わっていくと思うので、未来を生きていく人たちのために、私も意識を変えていきたい。

B-2: SDGsとは持続可能な開発への目標であり、特にエネルギー問題に関心を高める必要を感じた。将来ますます私達が生活していく上でなくてはならない目標になっていくだろう。再生可能なエネルギーや地球温暖化など、環境問題に我々人類が向き合わなければならない問題が多い。今回の講義を受けて、もう一度自分自身の意識や考え方を見つめ直すことが必要だと思った。

B-3: 世界中でSDGsを目標として掲げているが、持続可能な社会をめざせば、大量のエネルギー資源を使えなくなり、私たちの生活にも影響が出てくる危険があると思った。それでも日本は恵まれている国であり、他の国では電気が通らなくて貧困に苦しむ人もいる。この日本で生活できていることに感謝し、意識を変えていきたい。

B-4: 人工衛星から見た「夜の地球」は場所によって明るかったり暗かったり、地域の特徴が表れていたと同時に、とてもきれいだった。人間は自然界に大きな影響を与えていることを学んだ。持続可能な社会を意識していくことが大切だと思った。

B-5: 環境問題が起こる理由としては人口がどんどん増加しているために、木を伐採したりなど環境破壊が起こっていると知った。その他にもエアコン等の利用の仕方の影響があると知り、私自身も気をつける部分があるなど感じた。さまざまな発電方法があり、場所や自然環境に適応した方法ごとに、メリットやデメリットがある知りさらにもっと自分で勉強したいと思った。

B-6：人工衛星から夜の地球を見たとき、東アジアやヨーロッパ、アメリカなど先進国を中心に明るくなっており、それだけエネルギーを消費していることが分かった。石油や石炭などの化石燃料は、一定の地域でしか産出できず量にも限りがある。それを輸送する過程で二酸化炭素が排出されてよくない面も多いと思った。また、森林伐採や砂漠化を他人事にせず行動することで、きれいな地球を未来へ残していくべきだと感じた。

B-7：講義を受けて、私たちが今大学に通えていることは当たり前のことではないと改めて分かった。多くの他国では未だに十分な電力がなく、生活している人もいると知り、毎日の生活を無駄にしている場合ではないと考えさせられるきっかけになった。また、エネルギーについても学び、人口増加で限られた資源をできるだけ節約し、クリーンなエネルギーに変えていく必要があると考えた。地球自体にも一生があり、私たちが1度きりの人生を悔いなく終われるように、これからは一分一秒を大事にして生きていきたい。

B-8：今回の講義で資源が有限であること、環境が破壊されることは避けられず、持続可能ではないということ再認識した。日本はSDGsを考えられるほど平和で余裕がある国であるが、それだけで満足せず、世界には貧困で学びを受けられず、環境や資源のことについて考える余裕のない人々がいるということ、忘れないようにしなければならないと思った。人間全員が共通意識をもって本気で取り組まない限り、地球の破壊は食い止められないので、地球に住む一人の人間として自覚を持つとうと思った。

B-9：今回の講義を通して、地球規模の課題について学ぶことができた。SDGsを進めていく一方でそれすら知らない人たち、実行できない人たちがいるのに世界で進めることができるのかという話を聞いて、確かにその通りだと感じた。途上国の「できない人たち」を、先進国の「できる人たち」が支えていくこと、できる人が手を差し伸べることが重要なんだと強く感じた。また、人間が放牧や森林の伐採をしたことで、だんだん砂漠が増えていること、海面上昇や水温上昇によるサンゴの白化など地球環境がどんどん悪化していく中で、真剣に「地球の定員」を考えなくてはいけないと学び、他人事ではなくて自分のこととして意識し、目を向ける必要があると考えさせられた。

B-10：今回の講義を聞いて日本がどれだけ豊かな国なのかを実感することができた。日本でしか生きたことのない私には、これが普通だと感じていた。どこでも電気が通っていて、停電も少ない。また、義務教育がありみんな勉強を学ぶことが出来るなどと思っていた点である。地球で砂漠が増えていることは私たち人類が生きるために行ったことが原因であることを初めて知った。住む場所を確保するために森を伐採し、たくさん家畜を育て食料を作るために草が減っているなどである。過去に栄えた文明もこのことがきっかけで、今は砂漠になっていると知り納得した。

B-11：今回の講義で世界では、「100人に1人しか大学に通うことができない」ことに驚いた。私もその中の一人だと思うと改めて感謝しなければいけないと思う。また日本がほかの国々と比べて豊かなことにも感謝しないといけないと思った。

B-12：日本は他の国と比べてやはり安全で豊かな国だということがわかった。日本人は、それが当たり前のように暮らしている。しかし、今でも世界のどこかでは食事ができなくて苦しむ、私たちより幼い子供がいること忘れてはならないと思った。私は、この講義を通して今平和に暮らせていることや、当たり前のように食事ができていることに感謝しないとい

けないことに、気付くことができました。

(3) 傾向C：「行動を起こしたい」に分類される感想（38人から12人を抜粋）

C-1：講義ではエネルギー、環境問題について学んだ。エネルギー資源問題では、私たちはエネルギー資源の消費が多いけど、生産は少なく、このままだとエネルギーが枯渇するというのを聞き、私も節電などの省エネ対策、自分でできることをやろうと思った。

C-2：今回の講義ではSDGs（持続可能な開発目標）について学んだ。私は大学に入学してからSDGsと言う言葉を聞く回数が増え、地球規模の問題について考えている。持続可能な社会にするにはどうしても汚染物質が出てしまう。これにより、地球温暖化が進み、自然や地球が壊されていく。人間だけでなく、地球にいる動物も絶滅すると思う。このように地球規模の問題を解決できるように大学で学んで社会に貢献したいと思う。

C-3：エネルギー問題では、夜の地球を宇宙から見ると日本を含む先進国では大量にエネルギーを消費しているため明るいけど、貧しい国などではあまりエネルギーが消費されていないので暗いことが分かった。また人口の増加に電気の供給が追いつかず、停電してしまう地域が世界にはある。環境問題では、森林破壊や砂漠化、地球温暖化が進行している。人間の活動により、森林を焼いたり伐採したりして、多くの生き物たちの命に我々人間が非常に関わっていることを知った。さらに地球温暖化が進行することで地球全体の気温が上昇し、自然や生き物、そして我々人間にも深刻な問題を与えると改めて理解できた。エネルギー問題や環境問題を解決するためには、何をすればよいかをしっかりと考え、それを実行に移すことが大切だと思うようになった。

C-4：ここ数年SDGsについての活動をよく聞くようになった。日本ではエネルギー資源（地下資源）がほとんど取れないので、代替エネルギーの開発や省エネが必要となっている。そのためには一人一人の協力が必要であるので、私もできるだけ省エネに協力していきたい。そして、自分の家族や友達にも世界を良くするために、省エネが必要だという事を伝えて、実行しなければならないと思った。

C-5：SDGs、最近はこの言葉をよくテレビのニュースや、他の講義でも聞くことがふえた。「持続可能な開発目標」という用語だけを聞けば難しく感じるが、勉強していくと納得できた。豊かな日本で普通の生活を送っていると、世界が抱えている問題になかなか目が向かない人が多いと思う。この講義では改めて考えるきっかけになった。2030年までに達成するために、今できることをやっていきたいと思うようになった。

C-6：地理学を受講して、レポート課題に毎週ニュースを記載する課題があった。日常のニュースでも、貧困やエネルギー問題など、地球規模の問題に間接的に結びつくニュースが多い事に気付いた。国連が掲げるSDGsなんて土台無理な話だと思って諦観していたが、講義を聴いてからは、個人単位で出来る事を考えて実践したいと思うようになった。

C-7：エネルギー資源を輸入に頼っていると、国際情勢などによって、安定的にエネルギーが確保できないという問題がある。もし海外から輸入できなくなった時には、日本の経済活動や市民生活の全てが止まってしまうと考えたらとても怖くなった。したがって、再生可能エネルギーの利用率が高い新電力会社を利用することも、小さな対策になるのではないかなと思うようになった。

C-8：SDGsの意味は持続可能な開発目標。世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみならず2030年までに解決しようという目標であるということを知った。私も実際に、環境問題に少しでも貢献できるよう、小さなことから頑張っていきたいと思う。

C-10：今回の講義では、エネルギー・資源問題、環境問題などの地球環境問題と人口問題について学んだ。高校でもSDGsへの取り組みが授業であったので、講義でこの単語が出てきた時には、やっぱり大切なんだと改めて思った。これからの環境を守る上で、今から簡単なことから取り組んでいくことが、私たちにできることだし、やるべき事だと思った。

C-11：今の自分は大学生という存在で、恵まれた環境で暮らし感謝しないといけないなと感じた。それでもこの贅沢な生活をずっと続けてしまうと、日本だけでなく世界が滅びてしまうことになると思うので、自分が出せる節水や節電などの小さな事から初めていきたいなと思うようになった。

C-12：世界では大学まで進学できるのは、「ほぼ100人に1人しかいない」ということを改めて認識した。今の私は「有難い恵まれた環境」にいることに感謝したい。現在地球全体で持続可能な環境作りがテーマとなっている。我々人間はこれ以上少しでも多くの環境破壊を防ぐために、よく考え行動しなければならないと思う。一人一人が自覚するには時間がかかるかもしれない。また一人一人のできる行動は少しかもしれないが、私もできることから環境の保護に取り組みたいと思った。

(4) 傾向D：「目標の達成は困難」に分類される感想（15人から7人を抜粋）

D-1：夜の地球の写真（電気の灯りの分布）を見れば、経済の発展状況などもすぐわかることができ、とても驚いた。日本では人口が減少しているが、世界では人口が増加しているという真逆の事が起きていることに、この講義を受けるまで気づかなかった。またサンゴは植物ではなく動物だという事を初めて知った。私たちが大学に通えるのは日本という恵まれた国に生まれたからで、これから色々な事も勉強していこうと思う。しかしながら、SDGsは確かに理想の目標であるが、現実的には達成は厳しいと思った。

D-2：森林の伐採や砂漠化、海水温上昇によるサンゴの消滅などの環境問題は長い間言われ続けている問題であるが、あまり改善されてないと感じた。SDGsは環境問題に人々の関心を集めるのには役に立つが、具体的に実現可能かはわからないと思う。

D-3：今日の授業でエネルギー問題と環境問題について学んだ。国連は持続可能な社会の目標としてSDGsを掲げているが、こんなものが達成できるとは到底思えない。途上国では車においてはガソリン車しか使っていないし、電気も満足に使えない。こういった状況で、先進国を基準に目標を設定にするのは間違いだと思う。本気でやるのであれば、途上国を基準に考え、それを中心とした枠組みを構築しなければ、いつまで経っても目標は達成できないと思う。

D-4：今回の講義でエネルギー問題、環境問題について学んだ。今でも電力の供給が追いつかず停電が頻繁に発生する地域があることに驚いた。最近、日本でも電力不足問題があったので身近に感じる課題だった。持続可能な社会を実現していくのは大変難しいと思うが、将来のことも考えて地道に解決しなければならない問題だと思った。

D-5: 講義では砂漠化、汚染物質などの地球環境問題について学んだ。アマゾン川周辺では全世界の3分の1を占める生き物が暮らしているとされるが、熱帯林の伐採が行われている。また、アフリカ大陸のサヘルと呼ばれる地域では、家畜などに食べられ、二度と草が生えない地域が増えている。さらに北極海では海水の減少が進むなど温暖化による影響も大きくなっている事を知った。日本は水や電気などの環境が整っていて、恵まれていると思った。もはやSDGsは達成が困難だが、少しでも自分で出来る事に取り組んで、「環境問題が進むのを遅らせる」ことで、社会貢献をしていきたいと思った。

D-6: 「地球の定員」について考えさせられた。日本では人口は減少しているが、世界的に見ると増加している。そのため居住区を作ろうとすると自然を破壊する必要がある。しかし自然を破壊すれば温暖化を促進してしまう。どう考えてもSDGsは実現が難しい目標だと思う。

D-7: 環境問題は最大の課題だと思う。二酸化炭素排出が多くなっているが、それと同時に便利な生活ができるわけでもある。便利だけではダメだと思うので便利の中で環境にやさしいこともしていかなないとダメだと思う。だがその問題はとても難しいことになってくると思う。どちらも取るとなったら、今度は多額のお金が発生することになってしまうだろう。したがってこのような目標の達成はとても難しいと思う。

(5) 傾向E: 「その他」に分類される感想 (16人から10人を抜粋)

E-1: エネルギーは使えば使うほど足りなくなっていくが、これは、日本だけの問題ではなく世界の共通の問題であるので、国と国が協力し合って解決できたらいいなと思った。私は何もできそうにないが、SDGsの目標達成がうまくいくことを願っている。

E-2: 日本では少子高齢化が進んでおり人口が減少しているが、世界では人口が増え続けていることを知った。また今の世界の総人口は約80億人だが、2050年になると100億人にまで増えることを知りとても驚いた。そこまで世界人口が増え続けると、もっと環境問題や食糧問題が深刻化するので心配になった。

E-3: 私はSDGsについて、その名称とある程度は知っていたが、それほど深くは知らなかった。今回の講義で、あらためて深く知ることができた。エネルギー、資源については本当に深刻な問題なんだなと思った。この問題を解決しなければ、地球全体がうまく回らなくなるのも時間の問題かもしれない。私には何もできないが、そのために色々な人が動いて解決に向かって行くことを期待したい。

E-4: 環境問題の砂漠化や森林破壊、海の砂漠化、これらは全て人間によるものであり、経済活動をする前にこれらの問題に対しての解決策を持つことを義務とするような、「国際的な法律」を作ることがまず必要なものだと私は考えた。そして「地球の定員」という言葉があることは知らなかった。この言葉を正しく理解した上で世間の常識的な概念として浸透させることが、人口増加を止める解決策の一つになると考える。

E-5: SDGsなどを掲げても環境問題は止められず、いつかは地球は滅びてしまうことになるのかと改めて思った。またある国では小学校にもろくに通えずに、その日に食べるものにも苦勞する人がいると知ったとき、現在普通に大学に通えている自分は本当に恵まれていると思った。そして人生は目標をもってトライしていかないと変化はないと思った。人生が

何度も繰り返しができるならいいが、実際にはそうではないので、後悔のない大学生活を送りたいと改めて思った。

E-6：地球には寿命があり永久には持続可能な社会はできないが、資源の枯渇を遅らせる努力をすることが大事だと学んだ。また全地球の人口は、現在約80億人になっていて、あともう数年で100億人になると知った。そして「地球の定員」を考えることが大事だと学んだ。また地球の一生も、私たちの人生も1度きりというのを心の隅に置いて、生きていきたいと考えるようになった。

E-7：今回の講義では日本に住んでいる私たちがどれほど恵まれているか分った。世界では「100人に1人」しか大学に進学することができない。一方、日本には適当に大学に来て遊ぶ人もたくさんいる。大学に行けていることが普通だと思わないで欲しい。この講義を受けて今の私は、人生は一度きりなので、目標や夢を叶えられるように過ごしていきたいと考えるようになった。

E-8：講義を受けて、私が感じたのは日本という国の豊かさと、世界中の国が日本と同じように豊かだとは限らないこと。世界では100人いれば1人しか大学に行けない、という事実にも驚いた。人口がもうすぐ100億人を超えてしまうという問題も出てきた。人が増えるというのは、その分資源を費やすということで、それは同時に化石燃料などを使った火力発電や、ゴミの燃焼の回数が増えることでもある。そうなれば、地球はより温暖化が進み、気候変動が起きてしまい、徐々に地球と人間以外の生物は、人間のエゴによって蝕まれていっているのだと改めて感じた。かけがいのない私たちの地球の一生も、人間の人生と同じで、一度きりである。SDGsとは、結局一人の人間として悔いの残らないようにするということだと思ふようになった。

E-9：SDGsの講義では、地球環境と人口の増加について学んだ。大学への進学率では世界では100人に1人しか通うことができないと学んだ。自分はその1人だと知り両親にも感謝しないといけないと思った。地球環境については、今でも電気が通っていない国があり、明かりをつけるのにランプなどを使っているなどのニュースを見たことがあり、自分は日本に生まれてとても環境に恵まれていると思う。講義を通して世界の環境や生活のことについて、日本との違いなどを見つけれられて大変よい勉強ができた。

E-10：今までの講義の内容や今回の講義を聞いて日本という国がどれだけ経済発展していてどれだけ恵まれているかということを確認した。環境問題では、砂漠化、森林破壊、地球温暖化による北極海の氷が溶けていき、海の水位が高くなるなどの問題は「全部人間の責任である」ことを知った。そして私達が、今不満なく住んでいる環境があるのは、自然を壊したからだ。この地球という環境があるのはどれほど幸せなことかを知った上で、これからは環境問題について考えていかなければいけないと思う。SDGsは本気で全世界で取り組んで行かないと解決しない問題だと思うようになった。

4章. まとめと今後の課題

小稿では「教養科目地理学でのSDGs学習の感想」を、読み説くことで課題を明らかにし

ようとした。合計220名の大学生の感想は「傾向A：知識がふえた (40%)」、「傾向B：意識が変化した (63%)」、「傾向C：行動したい (38%)」という、3つの方向に分かれることがわかった。私はこの結果を肯定的に受け止めている。なぜならSDGsに代表される「地球規模の課題解決」のためには、「知識理解」→「意識改革」→「行動する」へと変化が不可欠である。このことを受講生諸君にある程度は伝えられたと思うからである。

次の段階として「私も何らかの行動を起こしたい」、しかしながら「一体どんな行動があるのか」という彼らの疑問に答える必要がある。そのためには、すでに「行動」を実行している、「先輩の事例」を取り上げて講義で紹介するのが有効である⁵⁾。例えば筆者の経験では、アフガニスタンで水路建設を行って来た「ペシャワール会の活動紹介」は、大学生の反応が良かった(中村2007)。今後はこのような教材を増やしていきたい。

その一方で大学生の感想には、残念だが「傾向D：目標の達成は困難 (6.8%)」と考える学生もみられた。これに関しては、「人間は地球全体のことを思うことができる唯一の生きもの(稲盛2001、81頁)」をあげて、どんなにSDGs目標達成が困難だとしても、それらを放棄することはできないことを伝えなければならない。

なぜなら地球は人類だけのものではなく、私たち人間には「地球全体を思いやる、唯一の生命体としての責任がある」からである。

また「傾向E：その他」の感想で注目したいのは、「大学生として学べることへの感謝の気持ちを持った」や、「私たちの地球の一生も、人間の人生と同じで、一度きりである。SDGsとは、結局一人の人間として悔いの残らないようにするということだ」などである。突き詰めていけば、SDGsの学習は「命の大切さ」や「生きる目的」「限りある人生をどのように生きるか」、さらには「地球の一生(終焉)」まで考えるきっかけにできることがわかった。

本報告では、大学生の講義の感想＝「本音」を伝えることをめざしたが、筆者による「要約」もあり不十分な点もあることをお許し願いたい。このような実践報告が今後のSDGs教育に少しでも役立てば幸いである。

《備考》

筆者が担当する、地理学 I (2022年度前期) 講義を熱心に受講し、「講義への感想文」を書き提出してくれた、大阪商業大学の学生諸君に感謝します。

《参考文献》

- ・秋山宏次郎監修、バウンド著(2020)『こどもSDGs』カンゼン。
- ・アレックス・ヘイリー著、安岡章太郎ほか訳(1977)『ルーツ上・下』社会思想社。
なおこの原作はテレビドラマ化されていて、DVD「ルーツ」ワーナーホームビデオ社(2005年)となり、映像としても教材に使用可能である。
- ・井田仁康ほか(2022)『私たちの地理総合－世界から日本へ－』二宮書店。

5) これは大阪商業大学の公共学部の目標でもある、NGO・NPO活動で将来活躍する人材養成と密接に結びついているため、学生諸君の意識も高く反応が良かった。

- ・ 稲盛和夫（2001）『稲盛和夫の哲学－人は何のために生きるのか－』PHP。
- ・ 金坂清則ほか（2020）『中学校社会科地図』帝国書院。
- ・ コール智子（2022）『おやこではなす、はじめてのSDGs』日本能率協会マネジメントセンター。
- ・ 齋藤幸平（2020）『人新生の「資本論」』集英社新書。
- ・ 澁澤文隆ほか（2022）『標準高等地図－地図で読む現代社会－』帝国書院。
- ・ 高橋真樹（2022）「このままでいいの？日本のSDGs」、歴史地理教育2022年11月号、4～9頁。
- ・ 中村哲（2007）『医者、用水路を拓く－アフガンの大地から世界の虚構に挑む－』石風社。
- ・ 深井宣光（2021）『小学生からのSDGs』KADOKAWA。